

| | | | | | |
|----------|--------------|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | 公衆衛生看護学概論 講義 | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 科目担当者氏名 | 吉田 幸子 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 2年前期 |

【授業の主題】

本科目は、健康に影響する様々な要因を学び、地域で生活している全ての人々の健康を支援する公衆衛生看護の概要を理解する。また、社会の変化に伴って起こる地域の健康課題に対して、組織的に解決を図る公衆衛生看護の機能と特性を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 健康を支援するためには、生活者の視点と予防の概念が重要であることが理解できる。
- 2) 健康な地域づくりにおける公衆衛生看護活動の意義と役割を理解できる。
- 3) 住民や関係機関との連携・協働の意義を理解し、地域の健康課題に組織的解決を図る機能や特性を理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 公衆衛生看護の基本理念と目標
- 第2回 公衆衛生看護活動の基盤概念 ①集団・地域・人権
- 第3回 公衆衛生看護活動の基盤概念 ②予防・戦略・政策
- 第4回 公衆衛生看護活動の歴史
- 第5回 社会の動向と健康課題
- 第6回 健康政策 (保健・医療・福祉制度)
- 第7回 国際保健 (諸外国の公衆衛生看護活動)
- 第8回 環境保健 (健康に影響を及ぼす生活環境要因)
- 第9回 地域保健 (生活構造・生活習慣と健康)
- 第10回 公衆衛生看護の対象 (個人・家族)
- 第11回 公衆衛生看護の対象 (集団・組織・地域)
- 第12回 公衆衛生看護活動の場
- 第13回 公衆衛生看護活動の方法と技術 (健康支援活動・組織支援活動・協働と連携)
- 第14回 公衆衛生看護活動の展開 (情報収集と整理・地域診断・計画・評価)
- 第15回 公衆衛生看護管理 (システム構築 施策化 健康調査 危機管理)

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

教科書の各回テーマ内容を事前に読んでおく事と、公衆衛生・保健行政に関する事例について、新聞・ニュース等で報じられている内容と関連付けて理解できるよう、社会の動向に興味を持って講義に臨んでほしい。

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「健康教育論」「在宅ケア論Ⅰ」「社会保障論Ⅰ」「公衆衛生看護活動展開論」等

【教科書等】

「公衆衛生看護学 .JP 第5版」 インターメディカル

【参考文献】

- 「公衆衛生看護学 第2版」 中央法規
- 「公衆衛生がみえる 2020-2021」 メディックメディア
- 「国民衛生の動向 最新年度版」 厚生労働統計協会

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート・提出物 20%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

保健師としての実務経験をもとに、地域で生活している人々の健康を支援する公衆衛生看護の機能と特性を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

公衆衛生看護学は、地域で暮らす人々を対象とした疾病予防と健康増進に関する学問であり、ヘルスポロモーションの理念に基づいて展開されます。わが国の公衆衛生看護が歴史的にどのように変遷し、社会環境の変化にどう影響を受けてきたかを理解して、これからの公衆衛生看護のあり方を考える基礎を学んでいきます。